

# 6 学年社会科指導案

亀山市川崎小学校

## 1 題材名 北伊勢飛行場

## 2 目標

- ・北伊勢飛行場の歴史について関心を持ち、意欲的に資料を調べたり、話を聞いたりして考えることができる。
- ・北伊勢飛行場の変遷を知り、日本の戦況が厳しくなっていったことと結びつけて考えることができる。
- ・資料からわかったことや聞き取ったこと、調べたこと、自分の考えを、分かりやすくまとめることができる。

## 3 指導について

15年戦争当時、川崎地区には北伊勢飛行場及び明野陸軍飛行学校北伊勢分教所があった。現在の川崎小学校は、その跡地に建っており、子どもたちは門扉、噴水池、士官候補者卒業記念石碑等現存する遺物を目で見たり、家族など身近な人から当時の様子を聞き取ったりすることができる。

北伊勢飛行場の変遷は、日本の戦況悪化と重なり、敗戦にいたる状況を身近なところから理解させるのに有効な素材であると考え、教材化した。

## 4 指導計画（全2時間）

- ・北伊勢飛行場についての聞き取り（1時間）
- ・北伊勢飛行場と厳しくなる戦況（1時間）・・・本時



## 5 本時の指導

### (1) 目標


- ・北伊勢飛行場の様子や役目の変化を知り、戦争が厳しくなっていったことと結びつけて考えることができる。

### (2) 準備物

- ・パソコン ・大型テレビ ・プロジェクター ・スクリーン
- ・昭和16年7月製作の士官候補者卒業記念石碑の写真
- ・1947年の能褒野地区航空写真（国土地理院 HPより）
- ・北伊勢飛行場の格納庫内の飛行機の写真（歴史博物館提供）
- ・北伊勢飛行場でト号整備が済んだ飛行機の写真（歴史博物館提供）
- ・「護れ太平洋要図」（1941年8月20日大阪毎日新聞社発行）（歴史博物館提供）
- ・「加藤秀茂日記」（歴史博物館提供）
- ・アメリカ軍爆撃目標地図（1945年6月「三重の戦争遺跡」より）
- ・「三重の戦争遺跡」（p58～p60）抜粋資料
- ・日本文教出版 小学社会6年上p120『日本本土にせまる連合軍（1942～45年）』
- ・日本の戦況の変化をまとめた自作年表



指導過程（45分）

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料
<p>1 北伊勢飛行場について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・位置</li> <li>・広さ</li> <li>・川崎小学校がその跡地の一部に建っていること</li> </ul> <p>2 北伊勢飛行場の役目の変化を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練学校としての飛行場</li> <li>・実戦部隊としての飛行場</li> <li>・特攻の中継地としての飛行場</li> </ul> <p>3 本時の課題をつかむ。</p>	<p>・運動場の広さと比較することでその広さを実感させる。</p> <p>・現存する遺物を思い起こさせる。</p> <p>・「三重の戦争遺跡」（p 58～p 60）より抜粋した資料からその役目を読み取らせる。</p> <p>・役目の変化を年表にまとめる。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1947年の能褒野地区航空写真</li> <li>・昭和16年7月 士官候補者卒業記念の石碑（門扉・噴水池）</li> <li>・「三重の戦争遺跡」の抜粋資料</li> <li>・格納庫内の飛行機の写真</li> <li>・ト号整備が済んだ飛行機の写真</li> <li>・地域の人から聞き取った出撃した兵隊の話</li> </ul>
<p>北伊勢飛行場の役目が変わっていったわけを考えよう。</p>		
<p>4 課題について考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争が厳しくなった。</li> <li>・日本本土への空襲が行われるようになった。</li> <li>・亀山にもアメリカ軍の飛行機が飛んできていた。</li> <li>・十分な訓練をしないで実戦に出た。</li> <li>・日本の領土が狭くなっていった。</li> </ul> <p>5 亀山市歴史博物館学芸員の話聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・爆撃に備え偽装のため、格納庫の屋根にペンキの代用として柿渋を塗ったことを紹介する。</li> </ul> <p>6 本時の学習をまとめ、感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料に基づいて自分の考えをまとめさせる。</li> <li>・2つの年表を比較することで、戦況の悪化によって、北伊勢飛行場の役目が変わっていったことに気づかせる。</li> <li>・年代によって違う日本領土の範囲から、拡大した領土が失われていったことに気づかせる。</li> <li>・柿渋を塗った日記の表紙から、偽装するために適切な色であることに気づかせる。</li> <li>・歴史博物館では、加藤秀繁日記の他に当時の新聞記事やくらしの様子がわかるものを大切に保管していることを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の戦況の変化をまとめた自作年表</li> <li>・学習活動2でまとめた年表</li> <li>・アメリカ軍爆撃目標地図</li> <li>・『日本本土にせまる連合軍（1942～45年）』</li> <li>・加藤秀繁日記</li> <li>・「護れ太平洋要図」</li> </ul>



本授業実施後、子どもたちから次のような感想が寄せられた。

- ・自分の住んでいるところの近くに戦争に関係することがこんなにあるなんてびっくりした。
- ・飛行学校から実戦部隊に編成されたことにびっくりした。それぐらい日本は追いつめられていたんだなあと思いました。
- ・むかし、この小学校に自分の家よりもっともっと大きい飛行場や飛行機をしまうところがあったことを知りました。運動場にむかしのものが落ちていないかと見てみたけど、何もありませんでした。見つからないほど前だったんだと思いました。
- ・今回の授業で渋柿や掩体という言葉をはじめて知りました。掩体の写真を見て、自分の住んでいる地域の歴史を学習する機会はあまりないのでよかったなあと思いました。
- ・友だちと北伊勢飛行場の跡が残っているところを見に行きました。「まだこんな遺跡みたいなものが残っているんだ。」と思いました。

